

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		稲井 博実
授 業 の 概 要				
就職活動を控え、これから、社会人になるにあたって、必要なスキルを身につける 3KAN教育の後半として、就職活動を通して社会人に必要なスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
1. 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2. 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3. 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、就職のしおりに目を通す				
回	テ ー マ	内 容		
1	企業訪問/就職試験について/ 企業が欲しい人材/自己分析	企業が求める人材の理解と自分を理解する		
2	グループワーク／面接対策	グループワークを体験し、協調性を身につける (Win-Win)		
3	ポジティブ表現(自己)(成長)	ポジティブな表現を身につける 1. 言葉の力		
4	新聞の読み方			
5	PDCA(自己)(学び)(成長)	実社会をシミュレーション(疑似体験) 討論（聴く、考える、話す力の訓練）		
6	社会人として知っておくべきこと (自己)(学び)(成長)	実社会をシミュレーション(疑似体験) 討論（聴く、考える、話す力の訓練）		
7	租税教室			
8	SNS			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「就職のしおり」（穴吹レッズオリジナル）		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭福祉		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		太田 敬志
授 業 の 概 要				
・ 児童家庭福祉の概略について				
・ 社会的養護の現状について				
・ 家庭支援・子育て支援について				
授業終了時の到達目標				
・ 社会的養護の歴史的背景について学ぶとともに、児童虐待や発達障害など、社会的に支援をしなければならない子どもの現状について理解する。				
・ 家族形態や家族機能の変化について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童養護施設での児童支援員や児童養護施設の長として33年間の実務経験。その経験を活かし、より具体的授業展開を図る。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	現代社会と子ども家庭福祉①		・ 少子化の現状・要因・影響	
2	現代社会と子ども家庭福祉②		変化する家族形態・子どもの貧困 ・ 家族機能の変化・子どもの遊びの変化・食生活・地域生活の変化	
3	児童虐待		DVDを視聴し、レポート提出	
4	子ども家庭福祉の歴史（世界）		イギリスとアメリカの歴史	
5	子ども家庭福祉の歴史（日本）		明治期以降の歴史	
6	子ども家庭福祉理念と法律		児童福祉6法と児童福祉法改正	
7	子ども家庭福祉の機関と専門職①		相談（支援）機関と専門職の役割	
8	子ども家庭福祉の機関と専門職②		里親専門相談員の方を呼び、里親支援について体験談を聴く	
9	児童福祉施設		児童福祉施設の種類について学ぶ（小テスト行う）	
10	子ども家庭福祉サービス①		児童相談所における虐待対応の流れ	
11	子ども家庭福祉サービス②		子どもたちをケアする施設の種類と内容	
12	ひとり親世帯への施策		ひとり親世帯の現状と生活支援	
13	障がいのある子どもへの支援		・ 障害福祉施策と支援	
14	母子保健施策と健全育成と保育サービス		保育サービスの多様化 仕事と生活の調和のための支援	

回	テ ー マ	内 容		
15	少子化対策と子育て支援	少子化対策の各種の取り組み		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
児童家庭福祉 第3版 子どもと家庭を支援する ミネルヴァ 2019		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援論		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
子どものその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子育て支援施策について理解する。 保育士が行う子ども家庭支援について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る			
時間外に必要な学修				
授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習・復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭支援の意義 少子化	
2	子ども家庭支援の目的と機能		子ども家庭支援の目的 機能と原則	
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		子育て支援・次世代育成支援 子ども子育て支援新制度	
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		社会資源とは 社会資源の担い手	
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義、子どもの育ち		保育者の専門性 子どもの育ち	
6	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援		保護者の支援 地域の支援	
7	保育士に求められる基本的態度		保育士と保護者の信頼関係 バイスティックの7原則	
8	家庭の状況に応じた支援		家庭の状況 保育者に求められる姿勢	
9	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		地域の社会資源の活用 自治体・関係機関との協力	
10	子ども家庭支援の内容と対象		子ども・保護者・地域 さまざまなアプローチ	
11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援		保育所等が行う子ども家庭支援 地域づくりと子ども家庭支援	
12	地域の子育て家庭への支援		地域の子育て家庭への支援 関係機関との連携	
13	要保護児童及びその家庭に対する支援		要保護児童の全体像と背景 家庭に対する支援	
14	子育て支援に関する課題と展望		ニーズの多様化 フォーマル・インフォーマルサービス	

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ、テスト	前期のまとめ 試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「子ども家庭支援論」中央法規		確認テスト	20.0%	
		期末試験	40.0%	
		課題・レポート	40.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
保育の心理学	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		渡部 幸奈
授 業 の 概 要			
本授業では、乳幼児期を中心としつつ、青年期・成人期に至るまでの発達を多面的に理解することを目的とする。発達を情動、認知、言語、社会性といった機能的側面から整理し、それぞれの理論的背景を踏まえながら、保育実践との関連を考察する。とりわけ愛着、こころの理論、道徳性、学習理論、発達障害理解を中心に扱い、子ども理解のみならず、保護者理解および保育者自身の自己理解へと学びを広げる。理論の習得にとどまらず、具体的事例の検討を通して、実践に活用できる知識の定着を目指す。			
授業終了時の到達目標			
発達を情動・認知・言語・社会性の観点から説明できる。 愛着理論、学習理論、道徳性理論などの主要理論を理解し、保育実践と関連づけて説明できる。 発達障害の特性を理解し、環境との相互作用の視点から支援を考えることができる。 青年期・成人期の発達課題を理解し、保護者支援の視点をもつことができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	愛着と情動の発達	愛着形成、内的作業モデル、情動調整の発達について理解し、保育における安心基地の役割を考える。	
2	感情の発達と自己制御	情動の分化、共感の発達、自己制御の形成について学び、幼児期の行動理解につなげる。	
3	認知の発達	思考の発達過程を整理し、保育における認知的援助のあり方を検討する。	
4	言語の発達	言語の発達過程と内言の形成を理解し、対話の重要性を考察する。	
5	自己意識の発達	自己認識、自己主張、自己評価の発達について学ぶ。また、対人関係の中で育つ自己意識について理解する。	
6	他者を理解する心の発達	心の理論の発達について学び、他者の気持ちや意図を理解する力の発達過程について理解する。	
7	児童期の発達と学習理論	児童期の認知的・社会的発達について学ぶとともに、行動主義、社会的学習理論などの学習理論について理解する。	
8	青年期の発達とアイデンティティ	青年期の心理的特徴について学び、アイデンティティ形成やモラトリウムの概念について理解する。	
9	成人前期の発達と親密性	成人前期の発達課題について学び、親密性の形成や対人関係の発達について理解する。	
10	成人中期以降の発達と保護者理解	成人中期以降の発達課題（世代性など）について学ぶ。また、保護者理解の視点から、保護者の心理的背景について考える。	
11	知能と得意不得意	知能の概念や多様な知能観について学ぶ。また、子どもの得意不得意の理解と個別配慮の視点について考える。	
12	特別なニーズをもつ子ども	発達障害など特別な支援を必要とする子どもの理解について学び、認知特性に応じた支援の基本について理解する。	
13	虐待と保護者理解	児童虐待とや適切な養育について理解し、保育者の気づきの重要性について考える。	

回	テ ー マ	内 容		
14	まとめと試験対策	各理論の整理および確認		
15	期末試験	筆記試験を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		坂井 利成
授 業 の 概 要			
乳幼児期から老年期の発達課題及び家庭内の問題等について学ぶとともに、家庭の意義、家族関係、子育ての在り方などについて理解し、家庭支援の方法を習得する。			
授業終了時の到達目標			
保育士として子どもへのかかわり方、家庭支援の在り方を理解し、適切な支援ができるようになる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	社会福祉士として福祉系科目を10年間の経験		
時間外に必要な学修			
確認プリントを授業後まとめておく			
回	テ ー マ	内 容	
1	乳児期の発達	新生児期・乳児期の言葉の発達、アタッチメント、くすぐり遊びにおける相互作用、二人称的アプローチ	
2	幼児期の発達	認知・言語・社会性・自我の発達、初期経験の重要性、保育場面における遊びの発達、発達心理学と発達精神病理学、発達の道すじにおける連続性と非連続性	
3	学童期の発達	学童期の発達を学ぶ意義、認知・社会性・自己の発達、学童期の発達をふまえた教育支援、近年の発達と教育の諸問題、小1プロブレム・中1ギャップ、これからの幼保小中接続	
4	青年期の発達、成人期・中年期の発達	●身体・認知・自己の発達、対人関係の変化、臨床的課題、攻撃性への介入プログラム、臨床的課題の近年の変化 ●成人期・中年期とは、倫理、職業に関するキャリアの発達、結婚と子育て、中年期危機、職業・家庭における課題、社会的情動スキルの形成と人生の成功	
5	高齢期の発達	生涯発達、高齢期におけるこころとからだの発達、超高齢社会、高齢者福祉、高齢者支援・かかわり	
6	家族・家庭の意義と機能	家庭・親族・世帯、家族の定義・機能の変化、支援者として家族にどう向き合うか、環境としての家庭	
7	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、乳幼児期を育てる時期、家族のシステム論、家族の関係を円環的に理解する、夫婦という水平的な関係、親子という垂直的な関係、ジェノグラム、親子関係への支援、父親を含めた家族関係への支援	

回	テ　　マ	内　　　　　容		
8	子育ての経験と親としての育ち	子どもをもつことについての意義、妊娠期間中の親、産後うつと初めての子育て、周囲の人との関係と親としての育ち、子育てと就業の両立が困難な社会的状況、園における子育て支援、親から子育て相談に応える、他の親子との関係を支援する、ママ友関係、地域における子育て支援		
9	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化・出産・子育てをめぐる状況、子育てを支える、要保護児童と家庭への支援、高度生殖医療と喪失		
10	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースとは、女性・男性のライフコースの歴史的変化と特徴、ライフコースの選択とモデル、性役割分業とライフコース、長寿化の時代におけるダブルケア役割、親のライフコースのなかで子育ての位置づけ、子育て葛藤・育児ストレスを親のライフコースのなかでとらえる、ライフコースの視点を活かした子育て支援		
11	多様な家庭とその理解	多様な家庭・家族、世帯人員と子どもの発達、子ども家庭福祉の観点、子どもの育つ環境としての家庭、子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題、ステップファミリー、多様な家族に向けたより具体的な支援、多様性に関われるということ		
12	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、子どもや家族の障害、不適切な養育と家族の機能不全、逆境的小児体験の影響、トラウマインフォームドケア、トラウマが保育者に与える影響、保育者のセルフケア		
13	子どもの生活・生活環境とその影響	子どもの育ちの基本、胎児の母体環境、出生後から幼児早期、幼児後期、子どもの環境とソーシャルメディア、子どもの貧困、ひとり親家庭、特殊な環境で育つということ、精神・身体疾患の親をもつ家庭、虐待家庭、施設での生活、特殊な環境で育った子どもにおける精神的な影響、子どもと保護者をどのようにサポートしていくか		
14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どもの習癖、睡眠・排泄・食行動異常・チック・吃音・場面緘黙、その他の習癖、自律神経失調症、ちょっと気になる子どもと発達障害、通常の発達過程ときになる子どもの言動、発達障害とは、保育園・幼稚園・学校における子どもの攻撃的な行動、感覚異常と行動の問題		
15	まとめ	テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中央法規出版　子ども家庭支援の心理学新・基本保育シリーズ⑨		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの保健	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
・ 小児の基本的な発達について学ぶ ・ 小児の疾病・障害などの理解を深め、予防や対応について学ぶ			
授業終了時の到達目標			
子どもの年齢に応じた身体や精神の発達を考え、健全な発育を育成するために個別な支援ができる保育士を目指す			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験あり		
時間外に必要な学修			
テキストでの復習をすること			
回	テ ー マ	内 容	
1	子どもの心身の健康と保健の意義	小児保健	
2	子どもの心身の健康と保健の意義	子どもの健康を脅かすもの	
3	身体発育と保健	発育には原則がある	
4	身体発育と保健	身長体重のバランス	
5	運動機能の発達と保健	乳児期・幼児期	
6	子どもの心身の健康と保健の意義	母親のメンタルヘルス・虐待・トラウマケア	
7～8	子どもの心身の健康と保健の意義	発達障害	
9	生理機能の発達と保健	自律神経 体温 水分代謝 発熱	
10	生理機能の発達と保健	循環・呼吸・心拍・血圧	
11	生理機能の発達と保健	消化吸収・排泄	
12	生理機能の発達と保健	睡眠・間隔器官・免疫・予防接種	
13	精神機能の発達保健	子どもの心の育ち・言葉の発達・社会性の発達・情緒の発達	
14	心身の健康状態とその把握	子どもの疾病と保育	
15	期末テスト 薬の飲ませ方		
教科書・教材		評価基準	評価率
よく分かる子どもの保健		期末試験	80.0%
			その他

回	テ ー マ	内 容		
		課題・レポート	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの食と栄養		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（32時間）		必須		宮本 美佐子
授 業 の 概 要				
子どもの食と栄養の基本的理論を学ぶ。小児期の栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活に関係があることを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. 子どもの健康と食生活の重要性を理解する。 2. 栄養に関する基礎知識をしっかりと学習する。 3. 食育の必要性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		管理栄養士として23年間保育所や小中学校で栄養管理に携わった経験を活かし、より実践的・具体的授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】前回学んだところを復習しておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1	子どもの健康と食生活の意義		子どもの心身の健康と食生活の関係	
2	子どもの健康と食生活の意義		子どもの食生活の現状	
3	栄養に関する基礎知識		栄養素の種類と機能	
4	栄養に関する基礎知識		食事摂取基準の意義	
5	子どもの発育・発達と食生活		発育・発達と栄養、食生活	
6	子どもの発育・発達と食生活		摂食機能の発達・食生活と子どもの健康	
7	妊婦・授乳婦の栄養ケア		妊婦の食生活	
8	妊婦・授乳婦の栄養ケア		母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活	
9	乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活		乳幼児の心身の特徴と食生活の関係	
10	乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活		乳汁栄養・離乳の意義	
11	幼児期の心身の発達と食生活		幼児期の心身の特徴と食生活の関係 間食の意義とその実践、幼児期の食育	
12	学童期・思春期の心身の特徴と食生活の関係		学童期・思春期の食生活 学校給食の重要性と食育	
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 障がいのある子どもの食生活		子どもの疾患と食生活 食事療法が必要な子どもへの対応 障がいの特徴と食生活 摂食・嚥下機能の発達	

回	テ ー マ	内 容
14	児童福祉施設における	児童福祉施設の特徴と食生活 児童福祉施設の食事計画の基本的方針
15	食育の基本と内容・方法	食育の基本的考え方 食育の方法

回	テ ー マ	内 容		
16	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学テキスト『子どもの食と栄養』		確認テスト 課題・レポート スクーリング	25.0% 25.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と造形表現	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		三木 美雪
授 業 の 概 要			
○幼児期の特性を理解し、造形活動に必要な専門的な知識を得るとともに、技能や表現の基礎について学ぶ。 ○造形遊びや創作活動を通して、幼児造形活動について考察を深め、必要な指導力や感性、発想力を身に付ける。			
授業終了時の到達目標			
○幼児期の特性を理解し、幼児の感性や創造性を豊かにする支援や教育を行うための知識・技能・表現力を身に付けることができる。 ○造形活動の基礎的な知識・技能・表現を踏まえ、造形活動を実践することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	特別支援教育に携わる。盲学校、知的障害、肢体不自由支援学校での34年の勤務経験を生かして実践的な教育を図る。		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	幼児期の造形活動の特徴 幼児造形活動における描画材・素材・用具	年齢、発達段階との関係性から考える。 描画材・素材・用具の可能性について考える。	
2	造形活動のいろいろ 感触遊び・造形遊びから造形活動へ	テーマを決めてつくる活動、描画材・素材を活かした抽象的な造形活動など、造形活動のねらいについて考える。	
3	身近な素材を使用した造形活動について①	抽象的な表現 素材に触れ、楽しむことから発展させてつくる。	
4	身近な素材を使用した造形活動について①	抽象的な表現 素材に触れ、楽しむことから発展させてつくる。	
5	身近な素材を使用した造形活動について②	テーマを決めた表現 描画材の特徴を生かしてつくる。	
6	身近な素材を使用した造形活動について②	テーマを決めた表現 描画材の特徴を生かしてつくる。	
7	身近な素材を使用した造形活動について②	テーマを決めた表現 描画材の特徴を生かしてつくる。	
8	自己評価・合評会	制作した作品を通した造形活動のねらいや気づきについて、プレゼンテーション形式で発表する。	
教科書・教材		評価基準	評価率
造形表現（指導法） 岩男順 近畿大学九州短期大学		スクーリング	100.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
幼児と健康	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	演習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位（16時間）	必須		藪内 正樹	
授 業 の 概 要				
1. スポーツを通じて体力を養う				
2. 体育の考えに基づき、行動力・判断力を養う				
3. スポーツを通して、運動すること、させることの大切さを学ぶ				
授業終了時の到達目標				
1. 実技・実習などの現場での生きる力として使えるようになる				
2. 情報のインプット、アウトプットを意識し、運動ができるようになる				
3. 与えられた環境・時間を使い、適確な運動指導が安全に行えるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	NSCA認定資格および理学療法士としての資格を活かし学生を指導する			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 普段から運動に親しみ体力をつけておく				
回	テ ー マ	内 容		
1	体力の大切さ、スポーツとは	(1) 身体活動の基本であるという認識をもつ		
2	体力の大切さ、スポーツとは	(2) 楽しみであるという認識をもつ		
3	どのようにスポーツを行うのか	安全管理、安全指導の基本		
4	どのようにスポーツを行うのか	なぜこれをやるのかと言う目的意識をもつ		
5	スポーツ指導の際の注意点	(1) コミュニケーションのとり方を大切にする		
6	スポーツ指導の際の注意点	(2) 安全管理・安全指導の意識をもつ		
7	スポーツ指導の際の注意点	(3) 集団が目的とする方へ導く		
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		スクーリング	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの健康と安全	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
子どもの命と健康を守るために必要な知識や技術を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
子どもの健康状態の把握、疾病や自己の予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を理解し、異常の早期発見や予防、治癒に向けて保護者と連携できる保育士を目指す			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験あり		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	1. 子どもの健康と保育環境 2. 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理	
2	保育における健康及び安全の管理①	1. 衛生管理 2. 事故防止及び安全対策 3. 危機管理	
3	保育における健康及び安全の管理②	1. 災害への備え	
4	子どもの体調不良に対する適切な対応①	1. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 2. 子どもに起こりやすい体調不良とケア	
5	子どもの体調不良に対する適切な対応②	1. 子どもに起きやすい事故の応急処置 2. 救急処置および蘇生法	
6	感染症対策	1. 感染症の集団発生の予防 2. 感染症発生時と罹患後の対応	
7	保育における保健的対応①	1. 保健における保健的対応の基本的な考え方 2. 3歳児未満児への対応	
8	保育における保健的対応②	1. 個別的な配慮を要する子どもへの対応 2. 障害のある子どもへの対応	
教科書・教材		評価基準	評価率
子どもの健康と安全（ななみ書房）		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%
			その他

作成者: 藤原 希

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害児保育		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
障害の特徴や課題、支援のあり方について				
授業終了時の到達目標				
障害の特徴を理解し、就学前の障害を持つこどもの保育や支援のあり方を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	障害児保育の体制づくり		1) インクルーシブ保育とは 2) 保育所・幼稚園での支援体制	
2～ 3	支援の技法		3) 家族への支援 4) 障害児のアセスメント 5) 発達支援の技法	
4～ 8	実技・レポート 他		6) 発達支援につながる遊び 7) 発達支援の教材作り 8) レポート 9) ディスカッション	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よく分かる障害児保育		課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児への特別な支援	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
障害の特徴や支援のあり方について			
授業終了時の到達目標			
障害の特徴を理解し、就学前の障害を持つこどもの保育や支援のあり方を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有			
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	障害児保育の概論	1) 障害児保育とは何か 2) 障害児保育の仕組み	
3～ 7	障害の特徴と保育の実施	3) 知的障害の特徴と保育での支援 4) 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援 5) 注意欠陥・多動性障害の特徴と保育での支援 6) 学習障害の特徴と保育での支援 7) その他の障害の特徴と保育での支援	
8	まとめ・期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率
よくわかる障害児保育		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		太田 敬志
授 業 の 概 要				
社会的養護の復習 具体的な支援について事例をもとに検討する				
授業終了時の到達目標				
様々な社会的養護を利用する子どもたちへの具体的な支援方法を学ぶ セラピューティックホールドやタイムアウト法について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童指導員の資格もち、児童養護の現場で30年以上勤務。 この経験を活かし、より具体的授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会的養護の理論と実際		社会的養護にかかわる施設での保育士の役割 倫理綱領	
2	社会的養護の理念と機能		社会的養護の理念 社会的養護の機能と役割 社旗的養護の法制度	
3	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利		子どもの権利条約 子どもの権利ノート 児童虐待 措置児童虐待	
4	施設養護のプロセスと記録および評価		アドミッションケア・インケア・アフターケア 記録の意義と目的・種類 第三者評価	
5	施設への入所前後の支援		被虐待により短期間施設入所を利用し、家庭復帰した子どもの事例から学ぶ もし、自分の勤務している保育所で虐待を疑われる子どもがいたらどうするか	
6	里親委託		児童養護施設から里親へ措置変更した子どもの事例から学ぶ 里親制度の復習	
7	セラピューティックホールドとタイムアウト		パニックをおこした子どもへの具体的対応方法について学ぶ	
8	高校を中退した子どもへの就労支援		15歳以上の子どもたちへの支援内容と方法について学ぶ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
演習・保育と社会的養護実践		スクーリング	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
子育て支援	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		近大九州講師
授 業 の 概 要			
相談援助の基礎を学習し、演習を通して援助技術の習得を目指す。 事例を通して子育て支援・社会福祉援助活動の実際を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
相談援助の基礎的な知識、技術、価値・倫理を習得し、子育て支援の現場で効果的に活用するための理論と方法を身につける。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～4	相談援助とは	ソーシャルワークの対象、生活モデル、価値と倫理、調査票調査	
5～8	面接技法と相談援助のプロセス	コミュニケーション、面接技法、バイスティック、相談援助活動のプロセス、マッピング技法、事例検討	
教科書・教材		評価基準	評価率
		スクーリング	100.0%
			その他
			近大現地スクーリング

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育実習Ⅰ（施設）	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	外部実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位（90時間）	必須		藤原 希	
授 業 の 概 要				
施設における保育や施設保育士の役割などの実際を知る。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
実習に必要な準備を行う。				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 45	施設における保育や保育士の実際	保育 施設保育士		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）		保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
社会福祉施設の種別ごとの概要や利用者の特性を知ると共に、実習先の施設に対する事前学習や振り返りをおこなうことで、より社会福祉や社会福祉専門職としてのあり方等について熟慮することを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
社会福祉施設の種別ごとの概要や利用者の特性を知る。また、実習に向けて事前学習をすること、実習後には利用者の現状と保育者のあり方について深く考える。特に、社会福祉専門職としての価値や倫理について知り、意識しながら過ごすことを常とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
施設の事前学習を自主的におこなう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 自分にとっての社会福祉		社会福祉と生活について考える	
2～4	実習先研究		実習先の種別や特徴、利用者等について考える	
5	日誌・実習課題などについて		日誌の書き方・実習課題の作成	
6～7	社会福祉専門職について		社会福祉専門職とその実際について考える	
8	自己覚知・まとめ		これまでの学びの振り返り 自己覚知	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育・教職実践演習		保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	演習	
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位（32時間）		必須		藤原 希	
授 業 の 概 要					
将来現場で職務を遂行するにあたり、卒業するまでに身に付けておかないといけない知識や技術等を補足・向上を図る。また、卒業後も引き続き高めていくべき学生自身の課題が何かを意識化することを目的とする。					
授業終了時の到達目標					
これまでの学びを振り返りながら学生自身が補足・向上していく知識や技術等に気づき、学び直しや確認ができること。また、卒業後も変わらずに学び続ける必要のある課題を見付けられること。					
実務経験有無		実務経験内容			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	オリエンテーション 履修カルテ記入		これまでの学びの振り返り		
2	子どもを取り巻く環境・子育てを知る		子どもの生活環境について考える 地域や家庭について考える		
3	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の確認		『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の比較・検討		
4～5	事例研究		事例の考察		
6～7	保育者として		保育者のあり方 専門職としてのあり方 人としてのあり方 子ども観・保育観など		
8～10	指導案作成・模擬保育・振り返り		模擬保育・振り返り		
11～13	ロールプレイ		事例をもとにロールプレイをおこなう		
14～15	まとめ 履修カルテ記入		学びの振り返り		
16					
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
近畿大学テキスト『保育・教職実践演習』 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』			課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現技術	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		山根 公美子
授 業 の 概 要			
幼児の音楽指導において、より高い技術を身に付ける。			
授業終了時の到達目標			
現場において、子どもたちの豊かな情操を育むための音楽指導力と音楽表現力を習得する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で31年の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	弾き歌い	“どう伝わるか” “どう伝えるか” 演奏の内容を意識する習慣をつける	
3～ 4	伴奏付け	和音付けができ、更に様々なジャンルを表現するための伴奏付けを学ぶ ⇒ 演奏練習	
5～ 6	アインザッツと歌詞はさみ	イントロとアインザッツの練習 歌詞はさみの練習	
7～ 8	アンサンブル指導	幼児が楽しんで演奏できる範囲でのアレンジと指導の仕方を学ぶ	
教科書・教材		評価基準	評価率
		弾き歌い 演奏 合奏	30.0% 30.0% 40.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもとピアノ	保育・幼児教育学科／2年	2026／通年	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
3単位（30時間）	必須		山根 公美子
授 業 の 概 要			
現場に対応できる実践実技能力のスキルアップと豊かな表現力アップ			
授業終了時の到達目標			
・個々人に添ったスキルアップ ・現場での実践力 ・より豊かな表現			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1～4	運指法	五指の役割 指使いのメリット・デメリット	
5～8	譜表の読み取りと指使いの関係 リズムの理解	ヘ音譜表とト音譜表 音符とリズムの関係	
9～12	伴奏方法のバリエーション	和声の展開と分解 アルペジオのバリエーション ユニゾン・ブリッサンド コードを知る	
13～16	豊かな表現・演奏	打鍵の音色 ペダルの効果とメリット・デメリット 総合的な表現	
教科書・教材		評価基準	評価率
近大九州ピアノテキスト・声楽テキスト		課題・レポート 期末試験	50.0% 50.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
児童文化	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
0単位（15時間）	必須		大石 恵子
授 業 の 概 要			
1. 「行事」の意義を理解する 2. 「行事」の運営や内容を学ぶ			
授業終了時の到達目標			
1. 幼稚園や保育所、認定こども園において、「行事」の経験が子どもにどのような学びをもたらすか理解する 2. 「行事の運営方法や保育内容についての知識を身に付ける			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
学習したことを復習し、日々の中で実践する			
回	テ ー マ	内 容	
1	1. 式	①始業式・終業式 ②入園式 ③修了式	
2	2. 誕生会	①誕生会	
3	3. 運動会	①運動会	
4	4. 遠足・園外保育	①バス遠足 ②徒歩遠足	
5	5. 記念日・祝日	①虫歯予防デー ②時の記念日 ③敬老の日	
6	6. 子ども会	①子ども会	
7	7. 避難訓練	①地震・津波 ②火災 ③不審者	
8	8. 伝統行事	①子どもの日 ②七夕	
教科書・教材		評価基準	評価率
プリント、実施計画案 等		課題・レポート 期末試験	50.0% 50.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育実習Ⅱ	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	外部実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
0単位（90時間）	必須		藤原 希	
授 業 の 概 要				
保育所における保育や保育士の役割などの実際を知ると共に、学生自身も実践する。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
実習に向けて必要な準備を行う。				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 45	保育所における保育の実践	保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後Ⅱ	保育・幼児教育学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
0単位（15時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
保育所保育指針を理解すると共に、保育所における保育を責任実習を通して様々なことを学ぶことが出来るように事前準備をおこなう。			
授業終了時の到達目標			
保育所保育指針を理解し、子どもの発達を見通し、教材研究をした上で指導案作成をおこなう。また、計画をもとに模擬保育をおこない振り返る、という一連の動きをおこなうことで、保育というものが計画的・実践的・反省的であることを理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
実習に向けて事前学習を自主的におこなう。			
回	テ ー マ	内 容	
1	これまでの実習の振り返り	これまでの実習を振り返る	
2	保育所保育指針について	保育所保育指針の内容確認	
3	自己紹介票、実習課題について	自己紹介票・実習課題の作成	
4	日誌・指導案について	日誌・指導案の書き方の確認	
5～7	模擬保育・振り返り	模擬保育と振り返り	
8	まとめ	実習に関わる伝達と確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
		課題・レポート 実習・実技評価	60.0% 40.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
教育相談	保育・幼児教育学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		渡部 幸奈
授 業 の 概 要			
本授業では、保育現場において必要となる教育相談の基礎的知識と実践的対応力の習得を目的とする。具体的には、子どもの観察と記録の方法、カウンセリングの基本技法、幼児の不応行動の理解、発達障害への支援、保護者支援、虐待対応、関係機関との連携などについて学ぶ。また、事例検討やレポート課題を通して、子どもや保護者の困難の背景を多面的に理解し、保育者として適切な支援のあり方を考える力を養う。			
授業終了時の到達目標			
1 教育相談の意義と保育者の役割について理解できる 2 子どもの行動を観察・記録し適切に理解できる 3 基本的なカウンセリングマインドと技法を理解できる 4 発達障害や不応行動への支援方法を説明できる 5 保護者支援および関係機関との連携の重要性を理解できる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	病院、学校、保健センター等で心理臨床業務に従事		
時間外に必要な学修			
授業内容の復習を行い、提示された事例について自分の考えをまとめること。			
回	テ ー マ	内 容	
1	観察と記録	教育相談の基礎として、子ども理解に不可欠な観察の意義と方法について学ぶ。また、事実と解釈を区別した記録の取り方や、教育相談に活用できる記録のあり方について理解する。	
2	カウンセリングの技法（レポート課題）	教育相談における基本的なカウンセリング技法について学ぶ。傾聴、受容、共感、言い換え、要約などの基本技法を理解し、保育場面での活用を考える。	
3	カウンセリングの活用	保育現場においてカウンセリングマインドをどのように活用できるかについて具体的事例を通して学ぶ。子どもとの関わりや保護者対応への応用について理解する。	
4	登園渋りの理解と支援（レポート課題）	登園渋りの背景となる心理的要因や環境要因について理解する。また、不安を抱える子どもへの具体的な支援方法について検討する。	
5	幼児理解における個別と集団	子どもを個別の存在として理解する視点と、集団の中の一員として理解する視点について学ぶ。保育者が両方の視点を持つ重要性について理解する。	
6	養育困難のリスク要因	養育困難が生じる背景としての家庭環境、経済状況、保護者の心理状態などについて理解する。また、リスク要因の早期発見の視点を学ぶ。	
7	幼児の不応行動とその理解	落ち着きのなさ、攻撃行動、引きこもりなどの不応行動について、その背景要因を多面的に理解し、支援の基本的な考え方を学ぶ。	

回	テ ー マ	内 容		
8	幼児期の発達障害	発達障害の基本的理解として、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症などの特徴について学び、幼児期に見られる行動特徴について理解する。		
9	発達障害の教育相談	発達障害のある子どもへの教育相談のあり方について学ぶ。個別支援の視点、環境調整、保護者支援の重要性について理解する。		
10	外部機関との連携	児童相談所、療育機関、医療機関などの関係機関との連携の必要性について学ぶ。また、保育者の役割と連携の進め方について理解する。		
11	保護者世代にみられる精神疾患	保護者支援の基礎として、うつ病、不安障害など保護者世代にみられる精神的課題について理解し、対応の基本姿勢について学ぶ。		
12	保護者の育児不安をもたらす要因	育児不安の背景となる社会的要因、心理的要因、孤立の問題などについて理解し、保護者支援の基本的な関わり方を学ぶ。		
13	虐待家庭への支援	虐待の種類と特徴、早期発見の視点、保育者の対応、通告義務について理解する。また、虐待家庭への基本的支援の考え方を学ぶ。		
14	園内の教育相談体制の整備	園内における教育相談体制のあり方について学ぶ。職員間の情報共有、ケース会議、チーム支援の重要性について理解する。		
15	まとめと振り返り	授業全体を振り返り、教育相談において保育者に求められる姿勢について整理する。総合的な事例をもとに支援のあり方を考察する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布する。		レポート課題 科目終末試験	50.0% 50.0%	

作成者: 藤原 希

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
教育実習	保育・幼児教育学科／2年	2026／通年	外部実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
4単位（180時間）	必須		藤原 希	
授 業 の 概 要				
幼稚園における教育や幼稚園教諭の役割などの実際を知り、実践をおこなう。				
授業終了時の到達目標				
自分が立てた実習課題を達成する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～90	幼稚園における教育や幼稚園教諭の実際と実践	教育 幼稚園教諭		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合演習Ⅱ		保育・幼児教育学科／2年	2026／通年	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
5単位（30時間）		必須		稲井 博実
授 業 の 概 要				
実習や行事に向けて、計画・準備・実践を通して、企画運営力を身につける。 また、実習に向け、より学びの多い実習になるよう準備を行っていく。				
授業終了時の到達目標				
実践を通して、保育・教育における準備や環境整備の意義を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	今後の実習についての確認	保育実習 保育実習（施設） 教育実習		
2	指導案について	指導案の書き方 教育要領・保育指針のねらい内容の読み解き		
3	実習オリエンテーション等の準備	聞くべき情報や伝えておくべき情報		
4	指導案の作成 模擬保育	指導案を作成し、模擬保育を実施する		
5	実習に向けた確認	教育実習		
6	実習における過去の事例検討	事例検討による実習準備		
7	実習に向けた確認	施設実習		
8	実習の振り返り 自己課題	全体での実習振り返りを行う		
9	保育実習に向けて	2回目の保育実習に向けた概要説明		
10～ 13	実習オリエンテーション等の準備	オリエンテーションに向けた準備		
14～ 16	実習報告会準備	実習報告会に向けた準備		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 製作物	50.0% 50.0%	